

昭和54年 5月25日発行（毎月1回25日発行） No.21

# 自治研報 かながわ

1979  
No.21

特集'79統一自治体選挙終る



神奈川県地方自治研究センター

神奈川県地方自治研究センター

## 第3回定期総会

と き 6月30日(土) 午前10時30分～12時

ところ 県労働福祉センター 4階ホール

内 容 <報告の部>

活動報告・決算報告

<議事の部>

活動方針・予算・役員改選

会員の皆さま、年1回の総会を上記のとおり開催いたします。皆さまとともに共同研究事業を行う場として、より充実した自治研センターに発展させるためにも、積極的な御参加、御発言をお待ちしています。

## 第16回 神奈川県 地方自治研究集会



[全体集会] 開催日時  
6月30日(土)午後1時～4時  
会 場 [全体集会]  
県労働福祉センター  
[分科会] 7月～8月  
県内各会場にて

全体集会記念パネルディスカッション

「地方自治をめぐる状況と

自治体綱領(政策)づくりの意義」

パネラー 横山桂次代表理事

葉山峻藤沢市長

片桐自治労本部自治体政策局長

主 催 自治労神奈川県本部  
神奈川県地方自治研究センター

# 自治研 かながわ

5 1979 No.21 特集79統一自治体選挙終る



神奈川県地方自治研究センター

## も く じ ◆◆◆ CONTENTS

### 政党政治の衰弱

「地方の時代」の統一地方選挙

中央大学教授 横山桂次 …… 3

1. 進む政治の行政化 …… 3
2. 無風選挙のもたらしたもの …… 5

### 覆面座談会 「統一自治体選挙」をふりかえって

司会 自治研センター事務局 …… 9

1. 「人気あれど熱気なし」だった知事選 …… 9
2. 旧与野党逆転の県議選をみる …… 10
3. 市長選挙の攻防をめぐって …… 11
4. 小数激戦の市議選をみる …… 13
5. 自治の原点・選挙をふりかえって …… 15

### 資料編

1. '79県内首長選挙結果 …… 17
2. '79知事・県議選挙結果 …… 18
3. 県内各自治体の政治勢力 …… 19
4. 県議選党派別得票比較 …… 20
5. 政令都市市議選党派別得票比較 …… 22

## 政党政治の衰弱

# 「地方の時代」の統一地方選挙

中央大学教授 横山桂次

(神奈川県地方自治研究センター代表理事)

### 一、進む政治の行政化

今回の統一地方選挙は知事選、市長選とも保守中道の文字通りの圧勝に終わった。それが80年代の政党連合のパターンとして定着するかどうかは、なお詳細な分析によらなければわからない。だが、確実なことは、先の京都、横浜、沖縄に次いで東京、大阪でも革新が敗北したことによって、革新地方政権の退潮が決定的になったことである。

それと共に、今回の選挙結果が明らかにしていることは、地域レベルにおける政治の行政化が一層促進されるだろうということだ。それは、とりもなおさず政党政治の衰弱を意味するのである。60年代以降住民運動と革新地方政権の大きなうねりの中で、中央直結を否定する地域政治が定着しつつあったが、それは行政組織を軸に政府の政策が県・市町村に一方的に下降する流れを、下から上へと逆流させようとするものであった。「分権・自治・参加」の思想は地域政策をめぐる地域政治の活性化である。そこでは政党をはじめさまざまな集団や住民がそれぞれの主張や利益を提起し、政策にまとめあげるため自主性をもって作業に参加する。政党には、政策提起によってこうした地域の営みにおけるリーダーシップを期待されていた。

だが、政治の行政化は地域政治の活性化を志向した60年代以降の動きを否定することになる。そ

れはまさに「行政あれど自治なし」の時代への逆行である。いわゆる「地方の時代」のもとでの選挙結果がこうした方向を示唆するとすれば政党にとってまことに皮肉なことといわなければならない。

### — 多様化した政党の組合せ

地域政治の行政化が一層促進される理由は、第一に首長候補をめぐる政党連合が自・社とりわけ社会党の著しい力量低下を反映してますます多様化し、政党の組み合わせでみる保守の対立が不明瞭になったことである。前回までみられた社会党中心の社・共、社・公・民、全野党などは影をひそめ、代って保守・中道が増加した。15知事選のうち自・民は12(前回6)、自・公・民は8に増えたのに対し、社・共の1、社・共・革自連の1、社・共・社民連の1、社・共・公・社民連・革自連の1を数えるに過ぎない。また、社会党が独自候補の擁立を見送り、公然もしくは事実上保守候補を支持したところは茨城、千葉など8を数え「無風選挙」の原因をつくっている。このうち、大阪では社会党が前回と同じように事実上分裂し、今後に残す例もあった。同様に、自民党が現職の革新候補支持に回った島根・神奈川や、対立候補の擁立を断念して事実上革新候補を支持した川崎市の例もある。こうした政党の多様な組み合わせは、地方議員選挙や国政選挙を射程に置いた各党の戦術や、与党化して実益をねらう「勝ち馬志向」によるのであろうが、住民に戸惑いを与え、

選挙に対し消極的にさせたことは否定できない。

### — 不明瞭な政党間の争点

第二は、政策や政治姿勢での争点が明瞭にならなかったことである。低成長・不況と自治体財政の危機的状況のもとでは地域政策をめぐる対立は出しにくいかもしれない。だが、地域には依然として諸問題が山積しているのである。環境破壊は高度成長の時期ほどではないにせよ確実に進行している。物価高や住宅・下水道の不足といった生活の基礎的諸条件の未整備、福祉、医療、教育などの諸問題などはとりわけ社会的弱者といわれる低所得層・ハンディキャップの人々に重圧となっているのである。

つまり、資源浪費・環境破壊・人間疎外型の重化学工業から省資源・知識集約・人間回復の知識集約的福祉型工業への転換が迫られ、効率・利潤追求主義による社会の荒廃が批判されている現在、大胆な地域政策と行財政制度改革の提起および地域政治の革新を志向する積極的な政治姿勢が打出されるべきであったと思う。自治体財政が苦しければなおさら、地域づくりの政策の選択、優先順位の決定に住民の積極的参加を必要としよう。「地方の時代」といわれ、分権・自治・参加が叫ばれながら、その具体的政策提起がなかったことは、政党の住民に対する責任回避であり、選挙への消極化にとどまらず住民の政党離れを促進することになる。新聞など、どの世論調査をみても住民の地域政治への関心はかなり高く、県・市町村への不満も強い。こうした住民の気持ちに政党は肩すかしを喰わせた、と言ったら言い過ぎであろうか。

こうして住民の選挙への関心は著しく低下した。投票率64.08%は過去最も低かった第6回選挙の68.7%をさらに下回る戦後最低の記録となった。とりわけ東京、神奈川などの大都市ではそれが極端に表われている。

### — 激増する官僚出身の首長

以上のような安易かつ無原則な政党連合と争点

の欠落、その結果として住民の選挙への不参加という状況は「地方政治に党派の対立は不要」という「脱イデオロギー」と共に、官僚出身者の首長選への進出を容易にしている。今回も旧官僚の出馬は改選数の2分の1以上に達し、非改選知事を含めると47都道府県知事の5割近くは旧内務省・自治省をはじめとする中央省庁のOBで占められることになったのである。その原因として政党連合が必然的に政策・イデオロギーを越えたいわゆる「中立的」候補としての官僚を求めると、財政危機に直面する自治体行政に専門家・実務家として中央に顔のきく旧官僚を適任とみる点で与野党とも一致しやすいこと、外郭団体の少ない自治省官僚が積極的に首長選に進出すること一などが挙げられる。

いうまでもなく今日の知事は戦前の官選知事ではない。だが、中央行政の専門家であるが故に、自治体を厳しく規制している行財政制度の抜本的改革を推進するよりは、かえって現行制度の中に自治体行政を閉じこめ、経営主義による自治体減量、合理化を促進する可能性の方が大きいのではなかろうか。それだけではない。ある新聞の指摘するように、政党間の対立を欠く「無風選挙」が、行政内部に緊張感を喪失させているが、それは今後の自治体運営を行政主導つまり官僚ペースで進行させようという官僚の自信の表われなのである。

### — 当選第一、少数激戦の議会選挙

都道府県議会選挙は自民党が総裁選挙の余勢を駆って積極的に候補者を立てたのに対し、社、共をはじめ各党は守勢に回って候補者を減らしたため、485名という空前の無投票当選者を出した。前回は130名であったから、各党の省カムード、当選第一主義がいかに強かったかがわかる。選挙結果をみると自民党が前回なみの42.5%の得票率をあげ、議席も保守系無所属の加入者を考慮すればほとんど減っていないのに対し、社会党の得票率16.5%は前回は2%下回り、議席数では改選前の15減の410にとどまった。これは前回よ



り実に43議席少ない数字である。こうして、全体としてみれば同党の退潮傾向は今回もとまらなかつたといえる。もっとも、議席の増えたところもある。北海道、茨城、長野など16道県であるが、そのなかでも福岡県で5名、宮崎県で4名増えているのが目立っている。社会党についてもう一つ指摘したいのは党内抗争の問題である。協会派と反協会派が対立する千葉県および福島県では派閥抗争が相乗効果を生まず、それぞれ9から3、12から9と大幅に後退し、同党の復調が容易でないことを示している。共産、公明、民社の3党は得票率での変動は少ないが、それぞれ議席を増やしているから、県議選で敗北したのは社会党だけということになる。

8大都市議選は各党が現状維持をねらって候補者を厳選したため少数激選となった。自民党の得票率は前回なみの30.26%で議席は3名減の193名であった。前回の統一地方選挙以降、同党の大都市における退潮傾向に歯止めがかかったとみてよい。一方、社会党はここでは県議選の低落傾向を阻止してはいるが、まだ回復のきざしをみせていない。得票率の17.3%は前回よりやや低い候補者を減じていることを考慮すると、議席が4名増えて101名になったことの方が目につく。公明、共産の両党は頭打ち、民社党の5名増が目立つ程度で大都市の状況にはあまり変化がみられなかった。

統一地方選挙の後半に行われた市区町村長選でも保革の対決ムードが薄れ、政党の組み合わせの多様化が進んでいるが、そのなかで社・共型もしくは社・公・共型の減少と自・公・民型の増加が目立っている。結果は社・共型（公・民・新自も含む）の著しい劣勢に終わった。とりわけ室蘭、小金井、国立で革新の座を維持できなかったことは、知事選と同じく革新地方政権の衰退を印象づけた。こうした状況の中で、自治労を中心とする地区労の運動が保守政権を倒した秋田県大館市、教育委員準公選の住民運動を背景にして革新区政を継承した東京中野区の例は示唆的であった。

## 二、無風選挙のもたらしたもの

### — 神奈川の選挙結果から —

以上、全国的な傾向と主な特徴についてふれたが、次に神奈川県下の選挙について気が付いた点をまとめてみたい。

知事選については既にふれたが、保革大連合が選挙を著しく低調にさせ、投票率も全国平均を大きく下回る53.25%にとどまった。そのなかで20万を越える批判票がでたことは、意識的棄権者を含めて、住民の無責任な政党および長洲県政に対する批判がかなりあったと読むべきであろう。

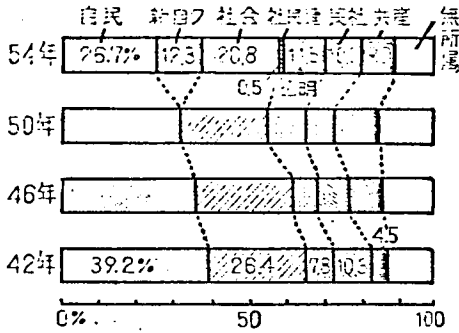
また、県政の行政化が進むであろうという点については、革新の絶対与党がないだけに気になるところである。革新の「地方の時代」に向けて知事の強力なリーダーシップを期待したい。

### — 県議選では社会党のみ敗北

県議選では6名の定数増にもかかわらず、前例のない6区11名の無投票当選者を出したことがまず目につく。それは、川崎市多摩区、茅ヶ崎市を別にすれば逗子市、中郡、足柄上郡、足柄下郡で革新側がそれぞれ党内事情もあって統一候補の擁立にまで至らなかったためと伝えられている。いずれこの問題は政党連合の消長にもよるが、今回の選挙の課題になるであろう。

党派別にみると自民党は前回の得票率33.0%をかなり下回る26.7%であったが、改選前の35議席は確保した。本県における自民党は停滞ないし低落傾向を辿っているとみられるが、新自クが得票率12.3%で議席を3名増やし16議席を確保したから、保守全体ではむしろ強化されているのである。それに対し社会党は得票率を2.6%下げ、改選前の議席を2名減らして25名にとどまった。公明、民社両党は得票率、議席とも増やし、共産党は現状を維持したから、7党の中で敗北を喫したのはひとり社会党のみということになる。横浜市では

図1 県議選党派別得票率



朝日新聞 1979. 4. 29

16名の候補者を立て4名を落選させているが、そのなかには中区で公・民協力に敗れたり、南区で候補者の調整から公認が遅れて失敗するなど主として、戦術上の敗北もあるが、神奈川県では候補者の調整がつかないまま2名を公認して全滅したように党幹部の指導性が問われる問題もでてくる。2名の得票合計12,000余票は前回1名の得票数より7,000票も少ないのである。これは、千葉の例のように、相互の支持票を奪いあって運動が外に拡大しなかったことを示している。

— 気にかかる衆議院選挙

県議選は次の国政選挙を予測する中間選挙といわれているので、各党の得票率の推移を衆院選挙区別に前回と比較してみよう。自民党は5区を除いて全般的に低落を示しているが、とりわけ2, 3, 4区でそれが著しい。もっとも3区では保

守系無所属が3割近くを占めているから総選挙レベルでの自民党は増加するはずである。

社会党も5区で上向いているほかは、退潮を続けているが、そのなかで3, 4区がとくに目立っている。5区で得票率が増加しているのは、平塚、南足柄などで市長選をたたかったことと関連するのだろうか。公明党は1, 2区で、民社党は3区でそれぞれ得票率を伸ばした。共産党は今回候補者を立てなかった5区を別にしても全体としては頭打ちないし低落の傾向をみせているが、なかでも3, 4区でそれが目立っている。前の総選挙に続いて今回台頭のめざましかった新自由クラブは3, 5区で社会党を抜いて第2党になっている。

このように県内6党のシェアは接近しつつあり、投票率の変動によって多少の変化はみられるものの、本県の多党化は定着したといつてよい。だがそれは「保守本流」をめぐる自民・新自クの対立が今回のように相乗効果を生む場合、保守優勢となる可能性が大きいことに留意すべきであろう。社会党にとって3区の劣勢は明らかであるが、その他の区でも公明か民社の協力が成立するところは不安定である。

— 横浜にみる市長選挙の後遺症

次に横浜および川崎の市議選の傾向をみよう。横浜でとくに注目されたのは、前回市長選の後遺症(住民および党内)と飛鳥田前市長を欠いたこ

表 2 県議選党派別衆院選挙区別得票率

	自民	社会	公明	民社	共産	新自ク	社民連	無所属
県計	586,381	456,952	252,189	219,897	198,660	269,754	12,481	197,271
得票率(%)	26.7	20.8	11.5	10.0	9.1	12.3	0.6	9.0
前回(%)	33.0	23.4	10.1	7.7	12.8	-	-	11.6
一区(%)	35.4	20.0	16.7	7.9	12.8	3.7	1.3	2.1
(前回)	37.4	21.9	14.5	6.1	14.3	-	-	3.3
二区(%)	24.1	22.9	14.0	10.9	11.0	13.9	0.0	3.2
(前回)	38.1	24.6	11.1	9.5	12.2	-	-	2.0
三区(%)	17.6	13.3	11.9	7.1	6.0	13.9	1.4	28.8
(前回)	21.0	19.4	10.0	5.4	11.9	-	-	30.8
四区(%)	25.5	26.2	10.7	13.6	11.3	11.4	0.3	1.1
(前回)	31.2	30.7	9.9	9.6	15.4	-	-	2.8
五区(%)	35.4	18.5	0.0	8.9	0.0	20.6	0.0	16.7
(前回)	35.1	16.9	3.4	6.0	9.2	-	-	29.4

(読売新聞社調べ)

読売新聞 1979. 4. 10

(注=前回得票率のうち、諸派1.5%は省略しました)

とが、社会党にとってどのように影響するかということであった。得票率でみると前回と比較して低落しているのは自民、社会、共産の3党であるが、この内社会党の4%減がとくに目立っている。これに対し公明、民社の伸長が著しい。だが議席数でみると減っているのは公明、共産両党の各1名だけで、社会党は改選前より1名増、前回と同じである。結局定数で増えた8名は民社党4、新自由クラブ4、で占めたことになり、他の5党はすべて敗北といえる。

ところで社会党にとって前回市長選の後遺症がどうでたかをみると、候補者の年齢、日常活動その他を別にすれば、後遺症はあったと推定せざるをえない。社会党の当選者を出身組合別にみると次のようになるが、そのなかで飛鳥田体制下の「御三家」といわれた浜教組、横交、横水で合せて現職2、新人2を落している。選挙前の予想では確実だと思われた現職が、組織をあげた運動にもかかわらず落選した例や、前回トップで当選した候補が今回は最下位当選となった例などとみると、総体的な得票数の低下とあわせて、後遺症とみてよいのではなかろうか。なお、組合出身でない地域党员では現職1、新人1を落しているがいずれも党専従者である。社会党は今回の選挙にかけてない危機意識をもって臨み、各組合の組織をあげてたつたといわれる。それが後遺症の重圧をこの程度にとどめた理由であろう。今回の選挙で飛鳥田前市長の支持票が「逃げた」といわれているが、その程度は小さいと思われる。というのは前回市長選の前に行った意識調査で社会党の支持率は上昇していたからである。その時期は社会党が現市長支持を決める前で、飛鳥田前市長の委員長就任が決定していた頃であった。

なお市長選はなく知事選も無風状態であったから住民の関心は知事選同様低く、投票率は前回の64.54%より13%以上低い51.13%で戦後最低に終わった。とりわけ港北、緑、保土ヶ谷、中、港南、金沢など主として人口増加の周辺区で50%を割っていることをつけ加えておきたい。

表 3 横浜市議選結果の党派別勢力変遷 最初のカッコ内は定数

第1回60 22年	民主14	自由12	社会20	無所属13	中立1
第2回64 26年	国民民主16	自由23	社10	市政同志会15	
第3回64 30年	民主18	自由15	左派9	右派10	市政同志会11
第4回68 34年	自民33	社会20	市政同志会10	中立会5	無所属1
第5回72 38年	自民16	社会16	同志会21	民社クラブ10	公明9
第6回80 42年	自民32	社会20	同志会5	民社13	公明9
第7回80 46年	自民26	社会21	同志会3	民社13	公明12
第8回88 50年	自民27	社会19	民社13	公明17	共産11
第9回90 54年	自民27	社会19	民社17	公明16	共産10
				新自ク4	諸派1
				無所属2	

毎日新聞 1979. 3. 23 より作成

表 4

社会党 横浜市議選 出身組合別 内訳	改選前	立候補	当選
自治労	1	2	2
浜教組	3	4	3
横交	3	4	2
横水	1	2	1
国労	0	2	1
全通	2	2	2
電通	0	1	1
その他	8	9	7
計	18	26	19

川崎市議選も無風の市長選を反映して低調であった。社会党は得票率ではほとんど変わらないものの議席を3名増やして効率のよい選挙を行った。それに対し、公明、民社、共産の3党は得票率を上昇させたが議席を増やしたのは民社党の1名だけで、共産党は現状維持、公明党は2名減らしている。5党のなかで目立つのは自民党の低落であろう。得票率で6%以上、議席数では3名減である。これはひとつには市長選を避けたことに原因があると思われる。

ところで、社会党の得票状況を県会と市会についてみると両市にはかなりの落差のあることがわかる。これは各党の立候補状況のちがいがによるのであろうが、その他にどのような理由があるのだろうか。横浜市では得票率は市会が25.5、県会が

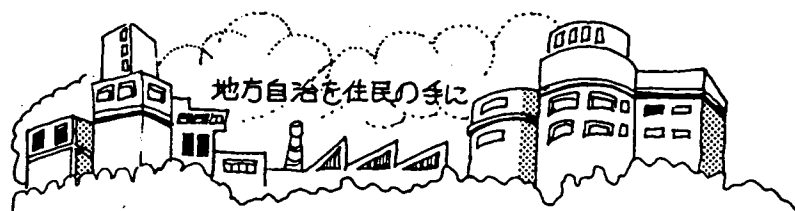
23.6%ではほとんどちがわないが、区別にみた得票数では保土ヶ谷、旭の両区を除いてすべて県会の方が多し。川崎市では市会の16.8%に対し県会は26.1%ではほぼ10%のひらきがある。得票数でも県会の方が全区で圧倒的に多いのである。

### —「無風」は革新の減少となる

以上今回の統一地方選挙を概観して感ずることは、「無風選挙」が社会党にとってマイナスに作用している点である。今日の社会党はいよいよ守りの選挙に傾いているが、それは党活動が畏縮している証拠であろう。例えば市長選とアベックでたたかった平塚および茅ヶ崎の両市議選では、保守地盤の強いところにもかかわらず、それぞれ議席を増やしているのである。また大和市では前回対決した現職の保守候補を一転して支持し、一部住民の批判を受けたばかりでなく、議席も1名減らしている。

つまり、保守首長およびこれを支える保守党派に対して、社会党の、住民参加によるまちづくり政策を提起することによって保守との争点を明らかにし、住民の市政に対する関心をひきだす積極的努力こそが重要なのだが、それが欠けていたということであろう。このことは知事選を含めて革新首長選挙についてもいえることである。与党としての社会党が、今後4年間にわたって首長に立候補させるべき政策を提起することが住民に対する責任なのである。こうして「無風選挙」の中では社会党の独自性、主体性が失われ住民は他党でなく社会党を選択しなければならない必然性や緊張感を持ちえなくなったといえるであろう。

ところで、自民党の退潮ないし停滞のもとで官僚の進出や行政優位—政治の行政化として特徴づけられる今回の選挙結果は、一般に「保守回帰」と呼ばれている。それには公明・民社両党の保守化が大きな役割を演じたのであるが、今後もそうした形が定着するかどうかはわからない。両党とも保守化に抵抗する可能性を支持層に包含しているからである。だが、何といても党派住民をひき寄せ、保守・中道路線を打破する責任を負っているのは社会党である。前にもふれたように社会党は主として労働組合によって支えられた政党である。ことの当否は別としてそれは事実である。したがって今日の党の力量低下はすなわち、労働組合の力量低下に他ならない。問題は党を支える組合員、組合出身議員、および支持者が党の力量増大にどれだけ寄与しているかにある。このことをぬきにして党勢の拡大はありえないといえよう。現在の組合員が党活動を積極的に展開することによって、はじめて住民は党に信頼を寄せるからである。社会党員（組合員）がほんとうに「下からの地方の時代」を築くため分権・自治・参加による地域政策づくり運動に取り組み、住民運動や消費者運動、経済団体など地域の住民組織と対等に討議できるようになるならば、地域政治におけるリーダーシップをとることも可能になるだろう。そうした作業の一環として県および県下の自治体や地域のかかえる諸問題の分析解明に県評、地区労、各単産、地方議員などがもっと積極的に「神奈川県地方自治研究センター」を利用していただきたい。それによってセンターの機能もさらに向上するであろう。





## 覆面座談会

# 「統一自治体選挙」をふりかえって

司会 自治研センター事務局

司会（事務局）本日はお忙しいところお集りいただきありがとうございます。'79統一自治体選挙が、4月8日の県知事・県会・川崎市長・政令市議会選挙を第1ラウンドとし、4月22日の5市長3町長・11市議会5町議会選挙を第2ラウンドとして、ひとまず終了しました。この結果、神奈川の新しい自治体政治地図ができあがったわけです（資料編2・3参照）。

いうまでもなく、自治の原点としての選挙であるわけで、それぞれの地域ごとの特徴などをお話願いながら、神奈川の選挙や政治のあり方などについて討論いただきたいと考えます。まず、自己紹介を兼ねて、この選挙とのかかわりについてお話しいただきたいと思います。

Aさん 私は知事選挙にかかわっていました。25日間の長い選挙期間でしたが、県内のほとんどの地域をまわって、一緒に行われた第1ラウンドの選挙をみることができました。

Bさん 横浜の激戦区といわれたところで県会の選挙に関係しました。主に労働組合との関係を中心に運動をしましたが、官公労や民間の組合をまわってそれぞれのちがいがよくわかりました。

Cさん 私は2区南部（三浦半島）のある市で、県会と市会の選挙にかかわりをもちました。率直に言わせていただければ、地域での日常活動が集票力に欠かすことのできない重要なポイントであることを改めて痛感しました。

Dさん 私の場合は、第2ラウンドの湘南のある2つの市長選挙と市会選挙に関係していました。また、湘南の町長選挙にも一定のかかわりをもっ

ていました。湘南地区のうごきは、それぞれ特徴がみられましたね。

Eさん 私は川崎で市会の選挙をみてきましたが、同時に行われた市長と県会の選挙にも当然一定のかかわりをもちました。もっとも市長は無風といわれた選挙でしたが……。労働組合だけでなく中小企業や業種団体などとの関連をうけもっていました。

Fさん 横浜で2つの区の市会とある区の県会との関係をもってきました。また、労働組合の関係で他の区の市会、県会ともかかわりました。

Gさん 私は県央のある市で市会の選挙を主にやってきましたが、関連して第1ラウンドの県会にもかかわりをもっていました。保守基盤の強さと革新系の弱さが特徴的でした。

### 「人気あれど熱気なし」だった知事選

司会 それではまず第1ラウンドの方から討議をいただきましょうか。良い悪いはあるでしょうが、いちばん選挙期間の長かった知事の方から…。

Aさん 8党相乗りという「シラケ選挙」を初めて経験したわけです。8党推せんといっても、確認団体として選挙母体をつくったのは、社・公・民の3党と県評・同盟・電機の労働団体ですからそれぞれから専従者が出て選挙をやったわけです。ところが中心は、やはり社会党県評ブロックで、常駐の主力部隊でした。

県内の各地域をまわってみての印象ですが、3

月14日の告示から4日間で一周したのですが、「人気あれど熱気なし」と新聞に書かれたとうりでした。つまり、宣伝カーに長洲知事が乗って廻ると、ほとんどの人が「あゝ長洲さんか」と挨拶をしてくれ声援を送ってくれます。ところが、駅頭や街頭での演説や、立会演説会などに集まる人は非常に少ない。なかには「当選は決っているんだから選挙運動などやらなくてもいいんじゃないのか」と言われたこともたびたびです。

川崎の伊藤市長とも一緒になった日があるんですが、伊藤さんも同じ悩みのようでした。こうした知事・川崎市長の無風状態を、実際に地域で激しい闘いをやっていた皆さんはどう感じたのか、お聞きしたいですね。

**Eさん** 「8党相乗り」といっても、実際に知事の名前と県会の候補の名前をセットにして宣伝したのは社会党だけでしたね。私の見た範囲では。たしかに今回の知事選挙も川崎市長選挙も、4つに組んで闘うだけの相手候補がないという選挙でしたが、8党とか4党とか言われましたが、相乗りというより「ただ乗り」だったというのが正しいように思えますが—（笑い）。

**Dさん** Aさんの言われた「人気あれど熱気なし」という感じはその通りだったと思います。私の方は、県会も無投票でしたから、よけい無関心になったのですね。市長の選挙運動をやっている人たちでも、長洲革新知事ということにあまり関心を寄せていなかったくらいですから。

**Bさん** 横浜でも、県会とのセットはむずかしくなかったようですね。県会の選対の側から見れば、知事をどのくらい使いこなせるかということが焦点であっても、セットできる時間は短いわけですから、メリットの有無の議論はありましたよ。

**司会** 今回の知事選は、通常政治パターンと違った選挙戦術を取らざるを得なかったのだと思われませんが、この選挙を通じて「得をしたのがどこで誰なのか」という議論がでてくると思うのですがいかがでしょうか。

**Dさん** 過去の選挙では、保・革の対立という

ことで、組合せのパターンは色々であっても、労働者としては「革新県政・革新市政」を作る運動が進められてきたわけです。ところが今回は、「知事の名前を使ってはいけない」という指示があって、革新市政を作ろうとする場合には、運動としてのプラス面がなくなり、マイナス要素が強かったと言えます。

**Fさん** 革新知事として4年前に当選した頃の熱気は全くなく、むしろ保守側から「知事の動きをおさえる」ために推せんされてしまったのでは。これは、革新側にとってかなり損をしたと思いますね。その結果は県西の県会選挙にハッキリあらわれていますね。

### 与野党逆転の県議選をみる

**司会** では次に長洲与党をめぐる県会議員選挙の結果について話を移してみたいのですが……。まず、'75年の選挙以後、新しい政党ができたり、定数が増えたりしたわけですが、結果からみてどうですか。

**Aさん** まず社会党が前回に比べて4議席、改選前に比べても2議席減しているのがまず目につきます。公明党が3、民社党が1増、自民党と共産党は変わらずです。新自由クラブと無所属がそれぞれ3議席増ですし、社民連は全滅です。通してみると定員増はあったものの、旧長洲与党の社・共・公・民の数は変わらず、定数増加分は保守側にもっていかれて、旧の与野党で見ると逆転したことになります。（資料2参照）

**司会** 無風とか無投票の選挙区の多かったのも特徴ですね。6選挙区で11人もの無投票当選が出たのは異常な状態ではないでしょうか。

**Dさん** 茅ヶ崎での無投票というのは、共産党が市長選挙に全力投球をすることになったため候補者を見送ったことに原因がある、といわれていましたが……。

**Eさん** 川崎の多摩区の場合は、私の知り得た

情報では公明党が重点候補をしぼったためだそうで、次回をねらっているということです。もっとも公明党の組織力が弱まったという説もあるのですが……。

**Aさん** 多摩区で一番得をしたのが共産党だった、といわれていましたね。また、神奈川区でもひろいものをしたといわれていますね。その点Bさん激戦区はどう見えていますか。

#### 激戦区で敗れた社会党

**Bさん** 定数4名で自民・社会が各2名を公認し、公・民・共・新自クの各党がそれぞれ候補者を立てた激戦区が神奈川区です。民社党も2名公認の予定を告示直前に1名にしぼったわけです。結果としては、自・公・民・共の4党で1名ずつ当選し社会党が共倒れになりました。

社会党は前回1名にしぼってトップ当選しましたが、今回は2名合せても前回より7千票も減っています。この原因は、2名の公認そのものが誤りであったこと、社会党内部の争いが中心になり他党との戦いにならなかったこと、さらに地元の支援者が2名の公認に対して、どちらへ投票したらよいかまよったことと、それに対する不信感を買ったことなどがあげられています。「有権者不在の公認争い」と一部で悪口をいわれたほどです。

**司会** この選挙区では市会を含めて激烈な闘いをやったわけですが、そのわりには投票率が10%も下っている。もっとも横浜市全体では13.5%も下ったのですから下り方は少なかったともいえるのですが……。激戦のわりには投票率が下りすぎたということは何を意味するのか、興味深いですね。

**Eさん** 社会党は川崎区と高津区でも定数4に対して2名公認しましたが1名ずつ落してしまいました。高津区では現職と元議員が入れ替りました。特に川崎区では、自民党の前回市長候補だった人が県会にまわり、社会党の2名分の票とほぼ同じ（千票差）だけ得票しましたので、労働者の街といわれたのは過去の話であり労働者の保守化の傾向をみるような気がしてなりません。

**Fさん** 戸塚区では定数6で自・社各2名と他党各1名、無所属2名の計10名が立候補した激戦区でしたが、社会党が2名、自・公・民・共各1名という結果でした。ここでは民社の候補者が1人で3万2千票も得票し、社会党の2名分より多かったのが目立っています。ここは社会党のウマくいった例でしょう。

**Aさん** 海老名と南足柄では社会と新自クの一騎打ちといわれましたが、海老名で社、南足柄で新自クが勝ち一勝一敗でしたね。

**Cさん** 社会党が現職の議席を確保できなかったところとして、鎌倉・平塚があります。ここでは自・社・民の現職に対して新自クの新人が出て、いずれも新自クに敗れています。3人区において保守側と公民協力の争いに社会党がはじき飛ばされた形になっています。きわめて深刻ですね。新自クの力を軽視した現職の油断もあると思います……。

**Fさん** 中区では定数減（2人区）のため現職同志の自・社・公の争いでしたが、公民協力により社会党の大物が落選の憂き目にあいました。

**Gさん** もうひとつ突込んでみると、相模原・藤沢などの定数の多い選挙区で、社会党が大きく得票数を減していることです。横浜でもそうですね。投票率の低さとあわせて困ったことだと思います。

**Aさん** 今までの話を総合してみると、保守中道路線の伸長に対して、それに対抗できなかった社会党側にも減少すべき理由があったように思えます。長洲与党の第1党であった社会党としては、革新的政策を今後県政に反映させるためには、かなり苦しい立場にたたさされているように思います。

#### 市長選挙の攻防をめぐって

**司会** 次に市長選挙をみてみましょう。まず川崎ですが、「等距離外交」などと悪口をいわれながらも伊藤さん以外の有力候補がなかったわけで

すが、Eさんはどう考えますか。

**Eさん** 市長選そのものは選挙というより信任投票という形でした。保守側に伊藤さんに変るべき人材がいなかったということと、対抗させようとする背景を作ることでもできなかったといわれています。伊藤さんは「ふるさとづくり」と「都市再開発」を中心に訴えていましたが、保守系の議員も全く同じことを訴えていたのが象徴的です。

また川崎の伊藤票と長洲票を比べると、伊藤さんが2万票ほど多いのですね。川崎が地元の山本さんが知事の長洲さんに対抗して出たためだと思いますが、知事山本・市長伊藤と投票した人もかなりいたのではないのでしょうか。

### 保革の激突—茅ヶ崎市長選

**司会** 市長選で保革の明確な対立があったのは茅ヶ崎市長選ですが、保守2に対して革新が1と3つどもえの戦いでしたが、実情をDさんからお話いただきたいのですが……。

**Dさん** 現職の榎木さんは昨年の秋に早々と4選にむけての立候補を声明していましたし、新自由クラブ系の青木さんも市会から市長に出る準備を早くから始めていました。これに対して革新側は候補者の選考が遅れて重岡さんに固まったのが2月です。ここから準備をやったわけで、新人でスタートの遅れが最後までひびきました。

革新統一候補は茅ヶ崎だけだったこともあり、市民連合による社共だけの共闘か、もっと幅広い選挙母体にするかについて最後までもめました。75年の市長選では保革の一騎打ちで、保守の現市長が4万に対して市民連合の候補者が3万票近く取った実績がある。このため保守2名となれば漁夫の利を革新が得ることができるとやゝ楽観ムードもありました。

政党の組合せもかなり複雑で、榎木さんには自民党と民社党がつき、青木さんには新自由クラブがついたのですが市会の新自由クラブはまともらず一部が榎木さんに流れました。公明党は微妙で、榎木さんが早々と立候補声明を出した際に公明党議

員の一部に支持をとりつけたといわれていたのを、革新側から熱いさそいがくる。このため内部の意思統一ができずに結局は自主投票になったようです。社共にしても公明党の去就を注目したのですが、革新側につけることができずに終わりました。重岡さんは良い候補者だったし、それなりに善戦したといつてよいと思いますね。

**司会** 茅ヶ崎市長選挙からんで、平塚市長と寒川町長に影響を与えたといわれているのですがその点はどうですか。

**Aさん** 統一選挙の前哨戦として行われた2月の厚木市長選挙で、公民の推した足立原さんが現職5期の石井さんを破ったわけですが、社会党が足立原さんを告示直前に推せんしたのも、公明党との関係、特に茅ヶ崎市長選挙を意識したためといわれていますね。

### 「前助役」が最有力候補？

**Dさん** 平塚と寒川では、特に地区労が現職首長に対して新人を推すことで選挙戦を燃えさせました。平塚では新自ク、いや河野党の地盤が強いところですが、それなりに反河野の雰囲気も強いのです。75年には反河野派の加藤さんが当選したのですが、4年後の今回はその加藤さんが落選して新自クと社会党の推した石川さんが当選したわけです。

**司会** 現職が1期で敗れるというのは、外からみていて意外な気がしましたね。

**Dさん** 寒川では、町長が県会へ出て辞任した（結果は落選しましたが）ため町長選挙があったのですが、町長派と反町長派の争いといわれ、地区労は反町長の鈴木さんを推し、わずか54票差で藤沢さんを破ったのです。地区労としては初めての取組みであり、かなり気を良くしています。

**司会** 南足柄も激しい選挙だったようですがいかがですか。

**Aさん** 市長選の前に行われた県議選で、先ほど話が出された新自クと社会党との一騎打ちがあったのですが、社会党の横山さんが500票差で惜

敗しました。その横山さんを支援したのが現市長の安藤さんです。安藤さんは保守系なのですが、社会党や地区労も推せんした候補で、前助役の加藤さんを敗って再選されました。県西でもとてもユニークな人柄で親しまれています。

**Fさん** 大和では前回保革の対決で激しい選挙が行われたのですが、今回は無風に近い選挙で現職の遠藤さんが再選されました。

**司会** これらを通じてみてどういうことがいえるのでしょうか。

**Aさん** 首長選びの候補者としては、まず目につくのが「前助役」です。当落は別にしても行政経験のある手型いタマとして候補者になりやすいということですね。19市の市長のうち7名であり、収入役や上級官庁の役人まで含めると10名にもなります。地方政治ではなく地方行政であるという認識なのでしょう。

町村では、助役とならんで町村議員出身者が多くなります。政治の行政化がかなり進んでいるといえるのでしょうか。

### 少数激戦の市議選をみる

**司会** では、市会の関係をみてみましょう。まず横浜から……。

**Fさん** 横浜は第1ラウンドでしたが、まず投票率の低下が目につきます。昨年の6党相乗りの細郷市長誕生以来のシラケムードが反映してか13.5%も低下し、人口増加にもかかわらず17万票も減っているのが気にかかります。

#### 横浜＝定員増は民社・新自クへ

横浜では定員が8名増加した全国一のマンモス市議会となったのですが、自民・社会が27・19で変わらず、公明・共産が1ずつ減って16・10となり、その分無所属と諸派が増えました。結局は定数の増加分は民社・新自クが4ずつ分けあって増し17・4となりました。得票率では社会(△4.1%)



自民(△2.1%)共産(△1.8%)が減少、民社(+4.3%)公明(+1.4%)が増加し、新自クが初選挙で5.4%の得票を得ました。

全国的に中道の進出が言われていますが、横浜市会も同様の傾向にあるといえます。特に社・共が得票率を減したことは、投票率の低下とともに革新離れを思わせませす。昨年の後遺症で社会党が減ることは予想していましたが、各労働組合の危機感が強かったため、フル回転したのでこの程度ですんだといえるにしても、勝利とはいえないでしょう。この結果からみて細郷市政はますます右寄りに傾斜していくものと思われます。

#### 川崎＝社会が増、自民が減

**司会** 川崎はいかがですか。

**Eさん** 4年間で人口の配分が大きく変わったため、定数全体は64で変らなかったのですが、選挙区ごとに増減があり、川崎・幸・中原が減り高津多摩が増えました。この影響もあると思いますが、社会党が4議席増し全員当選で12名となり第2党になったことと、反対に自民党が6名減で16名に下ったことが対称的です。また無所属が10名当選しましたが、うち1名が自民党に入り、同志会4、市民クラブ5という会派の構成になりました。いずれも保守系です。さらに、公明党が1減の11、民社党が1増の5、共産党が10で変わらずという結果でした。

伊藤さんを推せんしたのは、社・共・公・民で、選挙母体は社共でしたが、与党38：野党26となりました。社会党の増加分だけ保守が減った計算になりますね。社公共が1名差しかないので議会運営は大変でしょう。

横須賀 = 民社がささえる？横山市政

司会 横須賀はいかがでしたか。

Cさん 定数48に対して61立候補という激戦でした。社会党が10から8に減したのに対して、民社党が3から6に全員当選し倍増したのが特徴的です。また当選者の中に市役所の出身者が5名もあり、社会2・共産・自民・保守系無所属各1というぐあいです。そして、共産党は前回の全員落選から2議席を回復したのに対して、自民・公明が1名ずつ減し、ともに7、無所属は1増の17（革新系2・保守系15）という結果です。

選挙が終わってから「横山市長の与党は民社党だ」といわれたくらいです。市内の大手企業がこぞって「企業ぐるみ選挙」をやって民社党が増えたとも言われています。これらを見ても、横山市政の右寄り路線はますます強くなると思われま。与野党で分けると自・公・民と無所属保守系が与党で36、となり圧倒的な力となりました。住民の選択の結果とはいえ気にかかります。

特に社会党の減は、有力視されていた若手のホープが組織票をもたないために落選し、ベテラン議員の落選とあわせてかなりのショックでしょう。補欠選挙のたびに1名ずつ増してきたのをここで一挙に2名減になったのですから……。

湘南 = 不可解な新自クの態度

司会 湘南ではどうだったのですか。

Dさん まず藤沢ですが、ここでも社会党が県会で票を減した影響がまともにあらわれ市会も2つ減り6に、共産党が2増の4、新自クが初めて4議席を獲得したことが特徴でしょう。葉山市長3選にむけて来年までの議会運営は波乱含みとなるでしょう。

茅ヶ崎では市長選挙からんで複雑なうごきがありました。自民と社会が1増で他の党は変わりなかったのですが、新自由クラブは改選前11であったものが選挙にあたって新自ク公認は1名だけになり、ほとんどが無所属で立候補しました。このため無所属が大幅に増えてしまったのですが、新

市会	横川	浜崎	大都市計	定	自	社	公	民	共	新	社	諸	無	現	元	新
				数	民	会	明	社	産	自	民	連	派			
	96	27 <sup>27</sup>	19 <sup>18</sup>	16 <sup>17</sup>	17 <sup>13</sup>	10 <sup>11</sup>	4	0 <sup>1</sup>	1	2 <sup>1</sup>	72	3	21			
	64	16 <sup>19</sup>	12 <sup>9</sup>	11 <sup>13</sup>	5 <sup>4</sup>	10 <sup>10</sup>	0	0	0	10 <sup>8</sup>	51	3	10			
	160	43 <sup>46</sup>	31 <sup>27</sup>	27 <sup>30</sup>	22 <sup>17</sup>	20 <sup>21</sup>	4	0 <sup>1</sup>	1	12 <sup>9</sup>	123	6	31			
党派別当選者数	横須賀	48	7 <sup>8</sup>	8 <sup>10</sup>	7 <sup>8</sup>	6 <sup>3</sup>	2	0	0	0	18 <sup>17</sup>	36	1	11		
	平塚	40	1 <sup>1</sup>	6 <sup>5</sup>	4 <sup>3</sup>	4 <sup>5</sup>	4 <sup>3</sup>	0	0	0	21 <sup>22</sup>	28	1	11		
	藤沢	44	2 <sup>2</sup>	6 <sup>8</sup>	6 <sup>6</sup>	2 <sup>3</sup>	4 <sup>2</sup>	4	0	1	19 <sup>23</sup>	32	2	10		
	小田原	36	0	3 <sup>2</sup>	4 <sup>4</sup>	2 <sup>3</sup>	4 <sup>4</sup>	3	0	0	20 <sup>23</sup>	27	0	9		
	茅ヶ崎	30	2 <sup>1</sup>	4 <sup>3</sup>	4 <sup>4</sup>	1 <sup>1</sup>	3 <sup>3</sup>	1 <sup>11</sup>	0	0	15 <sup>4</sup>	21	2	7		
	相模原	46	0	4 <sup>7</sup>	1 <sup>6</sup>	5 <sup>5</sup>	4 <sup>4</sup>	0	0	0	26 <sup>22</sup>	35	0	11		
	三浦	24	0	1	3 <sup>2</sup>	1 <sup>1</sup>	4 <sup>4</sup>	0	0	0	16 <sup>17</sup>	18	1	5		
	大和	34	1 <sup>1</sup>	3 <sup>4</sup>	1 <sup>6</sup>	1 <sup>1</sup>	4 <sup>4</sup>	0	0	0	20 <sup>18</sup>	28	1	5		
	伊勢原	28	0	1 <sup>1</sup>	2 <sup>2</sup>	1 <sup>1</sup>	3 <sup>2</sup>	0	0	0	21 <sup>21</sup>	16	3	9		
	南足柄	26	0	2 <sup>2</sup>	2 <sup>2</sup>	0	2 <sup>2</sup>	0	0	0	20 <sup>20</sup>	17	0	9		
	綾瀬	26	0	2 <sup>1</sup>	3 <sup>3</sup>	1 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup>	0	0	0	19 <sup>19</sup>	19	0	7		
	市計	382	13 <sup>13</sup>	40 <sup>43</sup>	46 <sup>46</sup>	24 <sup>24</sup>	35 <sup>29</sup>	8 <sup>11</sup>	0	1	215 <sup>206</sup>	277	11	94		
合計	542	56 <sup>59</sup>	71 <sup>70</sup>	73 <sup>76</sup>	46 <sup>41</sup>	55 <sup>50</sup>	12 <sup>11</sup>	0 <sup>1</sup>	2	227 <sup>215</sup>	400	17	125			

(注) 丸数字は改選前勢力。丸数字の合計は定数増、欠員のため「定数」と合わないことがある。



自由クラブの組織性がこれから問われるでしょう。

平塚では社会党の新旧交替がうまくいって1増、公・共も1増でした。ここでも新自由クラブ発祥の地といわれながら公認ゼロとなっています。このためか、市長選との関係から選挙後の議会構成は、石川新市長の与党は保守系無所属の新光会が14と社会党の6です。新自クは選挙後3人で会派をつくり是々非々の態度をとるということです。どうもハッキリしませんね(笑い)。

**司会** 県央はいかがですか。

**Gさん** まず相模原ですが、社会党が7から4へと3減したのがまず目につき、公明党が1増して7と第1党になりました。社会党は県会でも前回よりも実に8%も得票率を減したわけで、市会にも直接その影響が反映されています。深刻な問題といえましょう。

社会党は大和でも1減しましたが、綾瀬では新人1人を増しています。県央でも県西でもそうですが、市会は地域代表的要素が強く政党化がすすんでいないため、無所属が圧倒的に多いのが共通した特徴です。

#### 大都市は政党化・市に多い無所属

**司会** では全体的にみてどうだったのでしょうか。大都市と市のちがいはあるでしょうか……。

**Fさん** やはり大都市の投票率の低さが気になります。知事選や川崎市長選といった目玉がなかったせいかもしれませんが(爆笑)。とにかく議員選挙は少数激戦だったのですがね……。

**Bさん** 大都市以外でも全般的に少数激戦ですよ。市議選の投票率はあまり落ちていませんが、市長対決と重なったところは前回よりもかなり上まった投票率になっています。

ともあれ、大都市では政党化がすすんでいるのですが、その他の市ではまだまだ無所属が多く6割近くに達しています。政党の議席順位では、大都市で自民43・社会31・公明27・民社22・共産20で新自クは4ですが、都市へ移ると公明63・社会56・共産51・民社33・自民14・新自ク12と順位が

いれかわります。(資料2参照)

県内市町村のトータルで議席の配分は、無所属が59.3%でトップ、公明9.9%・社会9.2%・共産8.4%・民社5.4%・自民5.2%・新自ク1.5%ということになりました。今回の第2ラウンドの市議選の得票率は、無所属55.3%・社会11.6%・公明10.8%・民社8.0%・共産7.6%・自民4.2%・新自ク2.2%ですから、民社・公明は得票より当選率が高いように思えます。

#### 自治の原点・選挙をふりかえって

**司会** いろいろお話をうかがいましたが、最後に全体を通じてひとことずつ総括的な話をしてください。

**Cさん** 社会党の退潮・低落というマスコミの宣伝がかなりの部分で影響を受けていますね。それと、企業ぐるみの選挙が同盟系を中心に積極的に展開され、大量得票を得たことが対象的です。さらに公明党と共産党が組織の限界というか、退潮に転じた傾向をみることができます。

#### 社会党は地域政策の確立を

**Bさん** 私としては社会党に期待をしているのですが、党としてシッカリした方針を持たないとますます住民離れがおきます。社会党支持層からは地域活動の弱さを指摘されており、労組出身議員が多いというのも党の日常活動を議員の個人まかせにしていることと関連しています。社会党としてそれぞれの議会・地域での政策を持ち、それを議員が一体となって実践していく時期がきていると思います。いまはバラバラですから……。

**Aさん** 革新政党にとって不況の状態の中で「冬の時代」にあるといわれていますが、そのことをおそれる必要はないのです。社会党のあり方が問われているわけで、Bさんのいわれるように支持基盤を明確にして党としての方針をしっかり持ってほしいと思っています。



**Dさん** 選挙闘争を通じて労働組合の政治活動へのとりくみが強化できることを地域で実践した例がいくつかみられました。特に自治体労働者の影響力はますます大きくなってきていることを痛感しましたね。

また労働組合と政党との関係についてですが、一方では労働組合と企業が一体となった選挙運動が行われているが、一方では労組依存はケシカランといわれている。実際の地域での選挙では、労組がいくらきんでも、労組内部の組織力が弱まっているのでは集票力はたかが知れています。その意味から従来言われてきた労組依存のパターンは終わったと思っています。

#### 首長選に政党は主体性をもて

**Eさん** 知事・市長選で感じたことですが、政党としての主体性は何か、ということです。単に政党間の組合せ論議で終って、地域政治に対する責任ある態度をとろうとしていないことが不満です。多党化現象の激しい都市部で、政党の責任ある態度がとりにくいのですが、逆にもたれあっている気がします。横浜の市長選以降ずっとこの傾向が続いているわけですから、もういいかげんで目を覚ましてほしいものです。

また地域に入って見て、地方選挙・議員選挙は「ドブ板」の要素がまだまだ強いということを痛感しました。日常活動のないところに集票力はつかないし、党としてどういう態度で地域に入るのか勉強してもらいたいですね。

**Dさん** ドブ板的な仕事に埋没するのと、ドブ板的な仕事の中から少しでも理解を深める運動をおこすのではちがうと思うんです。「自治」を考える運動をおこすという観点がなければ、保革ぬ

きでドブ板議員になってしまうわけです。政策は政策としてキッチリ作り、それを地域に落した場合には地域でしっかりと政策化していくやり方を革新側がもつべきだと思いますね。

**Cさん** 後援会づくりも大切ですが、利害だけの結合ではあまり効果がないですね。そうかといえ後援会のしっかりしていないところは集票力に欠けるわけで、政策を持ち地域活動もするということが必要なのでしょう。

**Eさん** 有権者と候補者個人のつながりは政策を通じてというのは少ないですね。

#### 新人の誕生をはばむもの

**Fさん** 新人が当選できなくなっている傾向を特に横浜では感じました。定数が8~9でも社会党は新人候補者を当選できずに1名にとどまっている区が3つもあるのですから。これは従来の革新政党の中心が社会党であるというイメージが、Cさんが言われたようにマスコミの悪宣伝もあって相当ダウンしている証拠でしょう。若い新人で革新となれば多くの浮動票がつかめたものですが、新人でも日常活動が少なければダメという時代に入ったように思います。

特に選挙上手といわれた官公労出身の新人が全員落選し、現職も落選していることなどをあわせて考えてみると、従来の選挙パターンでは対応できなくなっているとみてよいでしょう。

**Dさん** 茅ヶ崎や平塚や綾瀬では新人の社会党議員が誕生していますよ。市長選挙を激しく戦って、革新側が革新を支持してくれる層をほりおこすことをしなければ、社会党も伸びないということでしょう。

**Cさん** 県議選で鎌倉や平塚で現職を落したこともそれと同じ原因だと思うんです。鎌倉などでは投票率が44%ですから、革新側の有権者がほとんど寝てしまった。その影響は知事選にありといえますね。もっとも、鎌倉はインテリ層が多いので、東京では社共が手を組み、大阪では自社が手を組んだという「ネジレ共闘」に対する批判が社

会党離れをおこした、という説もあるのですが…。

**Aさん** 新人の誕生をはばむものとしては、各政党が当選第1主義にこり固って身動きがとれなくなっていることと、この結果としての少数激戦です。ボーダーラインが上がるわけですから知名度の低い新人には不利になります。

それともうひとつは選挙に金がかかりすぎることです。大きな組織をもたないとその準備ができない。一方では大企業をあげての「ぐるみ選挙」で下請・孫請・関連企業をしめあげる。保守側の地縁血縁の中には割込めない。こんな要素が重なりあっていると思いますね。

**エネルギーの発揮は内部より外部へ**

**Bさん** ある革新政党の党員に聞いた話ですが、候補者の選考——首長議員ともに同じですが、その過程が一般党員にはわからないというんですよ。革新政党がほんとうに開かれた党であれば、党員同志の民主的討論の場を保障する、その中からエ

ネルギーを出させる、これも必要だと思いますね。

**Gさん** 県会市会を通して見て、革新のその政党内部での争いは、争いあって票を増せば良いのですが、逆に結果的には減っている。これは、狭い支持層の中でコップの中の争いをやるため支持層からいや気がさしてあきらめるわけです。狭い中からとび出して他党の支持層へくい込む勇気がない。これではいつまでたっても発展はのぞめない。県の中央部は圧倒的に新住民が多く、それなりに要求や問題は山積しているほどあるのですから、地に着いた日常活動を組織的にやる必要があります。この選挙での革新側の敗北を率直に認め、もう一度地域の原点からやり直す覚悟が必要でしよう。

**司会** いろいろ地域における活動と選挙とのつながりについて討論がされました。まだまだ話はずきないのですが、今日はこのへんで終りたいと思います。ありがとうございました。

資料編 1.

'79 県内首長選挙結果

<p><b>知事</b></p> <p>当 2,025,562 <b>ながす一二</b> 無現            × 181,330 <b>山本 正治</b> 諸新            × 47,959 <b>高田 がん</b> 諸新            × 46,160 <b>吉川 朝臣</b> 諸新            [投票総数] 2,400,259 [有効投票] 2,301,011            [投票率] 53.25% [無効投票] 99,248</p>	<p><b>平塚</b></p> <p>当 54,634 <b>石川 京一</b> [投票総数] 106,926 [有効投票] 105,048            50,414 <b>加藤 禎吉</b> [投票率] 77.40% [無効投票] 1,877            [持ち帰り] 1</p>
<p><b>川崎市 市長</b></p> <p>当 352,913 <b>伊藤 三郎</b> 無現            × 17,791 <b>山岸 梅茂</b> 無新            × 13,858 <b>中岡 よう</b> 無新            [投票総数] 412,055 [有効投票] 384,562            [投票率] 59.84% [無効投票] 27,493</p>	<p><b>茅ヶ崎</b></p> <p>当 32,108 <b>榎木 一策</b> [投票総数] 81,252 [有効投票] 80,124            27,523 <b>重岡けんじ</b> [投票率] 74.94% [無効投票] 1,111            20,493 <b>青木 信二</b> (不受理) 1 [持ち帰り] 16</p>
<p>(注) ① 得票数の前の「当」は当選者            ② 「×」は供託金を没収(有効投票数の十分の一未満=知事選 230,101 票未満、川崎市長選 38,456 票未満)される者。</p>	<p><b>大和</b></p> <p>当 56,360 <b>遠藤 嘉一</b> [投票総数] 73,253 [有効投票] 70,722            14,362 <b>大谷いさむ</b> [投票率] 70.51% [無効投票] 2,531</p> <p><b>南足柄</b></p> <p>当 13,670 <b>安藤 正夫</b> [投票総数] 23,941 [有効投票] 23,733            10,063 <b>加藤 元義</b> [投票率] 92.11% [無効投票] 208</p> <p><b>寒川町</b></p> <p>当 8,118 <b>鈴木みつぐ</b> [投票総数] 16,363 [有効投票] 16,182            8,064 <b>藤沢けん一</b> [投票率] 74.48% [無効投票] 181</p>

79 知事・県議選挙結果

神奈川県地方自治研究センター

市町村名	県知事選挙						県議会議員選挙(当選者数)									
	投票者数	投票率	増△減	長洲一二	得票率	前回得票数	定数	社会	公明	民社	共産	自民	新自	無所属	社民連	その他
横浜 市	945,020	51.10	(△13.45)	796,302	84.3	632,788	44	12	(7)	(3)	(3)	17	3	0		
川崎 市	412,353	59.87	(△11.26)	332,721	80.7	252,703	19	(6)	(3)	(1)	(1)	(8)	3	0		※多摩区
横須賀 市	166,632	59.14	(△13.70)	140,132	84.1	98,646	(7)	(2)	(1)	(1)	0	(3)	2	1	0	
平塚 市	82,954	60.23	(△ 9.56)	70,019	84.4	45,775	(3)	(1)	0	(1)	0	(1)	1	1	0	
鎌倉 市	53,269	44.57	(△15.88)	46,335	87.0	36,684	(3)	(1)	0	(1)	0	(1)	1	1	0	
藤沢 市	103,584	54.49	(△11.82)	88,152	85.1	61,256	(5)	(1)	(1)	0	(1)	1	1	(1)	0	
小田原 市	72,706	60.21	(△16.61)	63,343	87.1	36,304	(3)	(1)	0	0	0	(2)	2	0	0	
茅ヶ崎 市	32,841	30.36	(△37.23)	29,499	89.8	35,027	(3)	(1)	0	0	0	(1)	0	1	(1)	※
逗子 市	11,709	28.60	(△32.57)	10,822	92.4	11,684	(1)	0	0	0	0	(1)	1	0	0	※
相模原 市	142,600	53.80	(△13.85)	120,239	84.3	76,322	(6)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	2	1	0	※
三浦 市	25,711	77.76	(△ 1.26)	21,157	82.3	9,693	(1)	0	0	0	0	0	0	(1)	1	
秦野 市	43,963	59.40	(△ 9.98)	37,600	85.5	22,094	(1)	0	0	0	0	1	1	(1)	0	
厚木 市	30,932	38.14	(△30.55)	26,379	85.3	18,566	(2)	0	0	0	0	(2)	2	0	0	
大和 市	53,500	51.63	(△15.76)	46,061	86.1	32,934	(2)	(1)	1	0	0	0	0	(1)	1	
伊勢原 市	23,072	53.02	(△15.33)	20,252	87.8	11,642	(1)	0	0	0	0	0	1	(1)	0	
海老名 市	23,624	53.66	(△14.12)	20,783	88.0	13,501	(1)	1	0	0	0	0	0	(1)	0	
座間 市	33,036	59.15	(△ 3.79)	28,470	86.2	16,929	(1)	0	0	0	0	0	0	(1)	1	
足柄 市	20,933	79.82	(△ 7.15)	18,565	88.7	10,986	(1)	0	0	0	0	0	1	(1)	0	
綾瀬 市	19,959	55.40	(△14.96)	17,084	85.6	10,310	(1)	0	0	0	0	(1)	1	0	0	
19 市計	2,298,398	53.46	(△13.97)	1,935,915	84.2	1,433,844	(15)	29	13	(8)	(6)	40	16	(9)	4	
三浦郡葉山町	5,819	31.01	(△32.32)	5,345	91.9	4,775										
高座郡寒川町	15,340	69.29	( 10.35)	12,434	81.1	5,685	1	0	0	0	0	0	0	1		
中郡	大磯町	5,749	28.82	(△41.51)	5,178	90.1	6,272	(1)	0	0	0	(1)	1	0	0	※
	二宮町	5,111	29.25	(△47.20)	4,672	91.4	5,451									
足柄上郡	中井町	2,539	46.08	(△35.93)	2,313	91.1	1,494	(1)	0	0	0	0	0	(1)	1	※
	大井町	3,685	46.00	(△41.45)	3,362	91.2	2,442									
	松田町	3,543	41.68	(△43.13)	3,246	91.6	3,306									
足柄下郡	山北町	5,809	58.80	(△29.74)	5,417	93.3	4,076									
	開成町	3,193	46.08	(△41.08)	2,934	91.9	2,490									
	箱根町	5,096	36.99	(△28.24)	4,521	88.7	2,845	(1)	0	0	0	0	0	(1)	1	※
愛甲郡	真鶴町	2,327	32.85	(△33.48)	2,105	90.5	1,758									
	湯河原町	4,640	26.51	(△39.17)	4,201	90.5	3,553									
津久井郡	愛川町	13,168	73.26	( 1.56)	10,947	83.1	3,891	1	0	0	0	0	0	1		
	清川村	1,720	73.76	(△ 7.98)	1,521	88.4	453									
17 町 1 村計	城山町	5,847	70.96	(△ 5.49)	5,146	88.0	2,216	(1)	0	0	0	0	1	0	(1)	0
	津久井町	9,156	73.18	(△ 0.18)	7,999	87.4	2,873									
	相模湖町	4,671	81.32	( 4.92)	4,122	88.2	1,543									
藤野町	4,845	78.49	( 1.01)	4,184	86.4	1,423										
合計	2,400,656	53.25	(△14.42)	2,025,562	84.4	1,490,389	115	25	16	9	6	35	16	8		
						改選前	108	27	13	8	6	35	13	5	1	

# 県 内 各 自 治 体 の 政 治 勢 力

( 79. 5. 1 現在 )

神奈川県地方自治研究センター

市町村名	首 長		議 会									
	首 長 氏 名	任期・選挙日・その他	定 数	社 会 党	公 明 党	民 社 党	共 産 党	自 民 党	新 自 民 党	諸 派	無 所 属	選 挙 日
横 浜 市	細 郷 道 一	① 53. 4. 16 無(自治省)	89 96	09 19	07 16	03 17	01 10	07 27	4	1	(1) 2	54. 4. 8
川 崎 市	伊 藤 三 郎	③ 54. 4. 8 無(市議)	64 64	(8) 12	02 11	(4) 5	00 10	01 16	0	0	(9) 10	54. 4. 8
横 須 賀 市	横 山 和 夫	② 52. 6. 19 無(助 役)	40 48	00 8	(8) 7	(3) 6	2	(5) 7	0	0	02 18	54. 4. 22
平 塚 市	石 川 京 一	① 54. 4. 22 無(助 役)	40 40	(8) 6	(3) 4	(5) 4	(3) 4	(2) 1	0	0	09 21	54. 4. 22
鎌 倉 市	渡 辺 隆	① 53. 8. 27 無(収入役)	30	6	3	3	4	1	2	0	11	52. 5. 8
藤 沢 市	葉 山 峻	② 51. 2. 22 無(市議)	44 44	(8) 6	(6) 6	(3) 2	(2) 4	(2) 2	4	1	03 19	54. 4. 22
小 田 原 市	中 井 一 郎	③ 52. 2. 6 無(県 議)	06 36	(4) 3	(4) 4	(2) 2	(4) 4	0	3	0	02 20	54. 4. 22
茅 ヶ 崎 市	柁 木 一 策	④ 54. 4. 22 無(日 大)	00 30	(2) 4	(4) 4	(1) 1	(3) 3	(3) 2	1	0	07 15	54. 4. 22
逗 子 市	三 島 虎 好	② 52. 8. 7 無(県教委)	26	2	3	1	3	0	0	1	16	53. 7. 2
相 模 原 市	館 盛 静 光	① 52. 1. 23 無(助 役)	44 46	(6) 4	(6) 7	(4) 5	(4) 4	(4) 0	0	0	04 26	54. 4. 22
三 浦 市	野 上 義 一	① 52. 6. 19 無(助 役)	04 24	1	(2) 2	(1) 1	(3) 4	0	0	0	09 16	54. 4. 22
秦 野 市	栗 原 藤 次	③ 52. 3. 6 無(県 議)	30	1	2	0	2	0	0	0	21	50. 9. 7(欠4)
厚 木 市	足立原 茂 徳	① 54. 2. 18 無(助 役)	30	1	3	2	1	0	2	0	20	50. 7. 27(欠1)
大 和 市	遠 藤 嘉 一	② 54. 4. 22 無(助 役)	04 34	(4) 3	(6) 5	(1) 1	(4) 4	1	0	0	09 20	54. 4. 22
伊 勢 原 市	中 村 周 二	② 51. 9. 26 無(助 役)	09 28	1	2	1	3	0	0	0	21	54. 4. 22
海 老 名 市	左 藤 究	① 50. 8. 24 無(市 議)	28	2	3	1	2	0	0	0	19	50. 10. 5(欠1)
座 間 市	本 多 愛 男	① 51. 9. 26 無(市 議)	30	4	3	2	4	0	0	0	17	51. 9. 26
足 柄 市	安 藤 正 夫	② 54. 4. 22 無(市 議)	06 26	(2) 2	(2) 2	0	(2) 2	0	0	0	00 20	54. 4. 22
綾 瀬 市	鈴 木 進	① 51. 7. 25 無(町 議)	26	2	3	1	1	0	0	0	19	54. 4. 22
19 市計			716	87	90	55	71	57	16	3	331	(欠6)
												( ) 内は75年選挙の 当選者数
三 浦 郡 葉 山 町	田 中 富	④ 52. 1. 16 無(大蔵省)	26	0	1	0	2	0	0	0	23	54. 4. 22
高 座 郡 寒 川 町	鈴 木 貢	① 54. 4. 22 無(助 役)	22	1	3	3	2	0	0	0	13	52. 2. 20
中 郡	大 磯 町	豊 田 由 登	22	1	1	1	1	0	0	0	16	50. 6. 29(欠2)
	二 宮 町	柳 川 賢 二	20	1	1	0	2	0	0	0	16	53. 11. 19
足 柄 上 郡	中 井 町	関 野 善 之	16	0	0	0	1	0	0	0	15	54. 4. 22
	大 井 町	瀬 戸 洋 二	22	1	1	0	1	0	0	0	19	51. 9. 26
	松 田 町	熊 沢 吉 次	22	1	1	0	1	0	0	0	18	50. 9. 21(欠1)
	山 北 町	真 田 快 尊	26	1	1	0	1	0	0	0	23	54. 4. 22
足 柄 下 郡	開 成 町	露 木 甚 造	20	0	0	0	1	0	0	0	19	54. 4. 22
	箱 根 町	勝 俣 茂	26	0	3	0	1	0	0	0	21	52. 9. 18(欠1)
	真 鶴 町	青 木 国 男	20	2	3	0	1	0	0	0	14	52. 9. 19
湯 河 原 町	杉 山 実	26	1	2	0	2	0	0	0	21	51. 3. 28	
愛 甲 郡	愛 川 町	相 馬 晴 義	26	0	1	0	2	0	0	0	22	50. 10. 12(欠1)
	清 川 村	山 本 務 本	16	0	0	0	0	0	0	0	16	52. 4. 17
津 久 井 郡	城 山 町	中 島 秀 昭	18	1	0	0	1	0	0	0	16	54. 4. 22
	津 久 井 町	梅 沢 忠 郎	20	0	1	0	1	0	0	0	18	52. 10. 23
	相 模 湖 町	長 谷 川 秀 夫	18	3	0	0	1	0	0	0	14	50. 12. 14
	藤 野 町	鈴 木 重 成	18	1	0	0	0	0	0	0	17	50. 9. 14
17 町 1 村計			384	14	19	4	21	0	0	0	321	(欠5)
合 計			1,100	101	109	59	92	57	16	3	652	(欠11)
		※ 無投票										

県 議 選 党 派 別 得 票 比 較

神奈川県地方自治研究センター

行政区名	年度	総 数		社 会 党		公 明 党		民 社 党		共 産 党		自 民 党		新 自 由 ク ラ ブ		社 民 党 ・ 諸 派 ・ 無 所属					
		立候補者数 ○定数	有効投票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数	立候補者数 ○当選	得票数		
鶴見区	'79	5-④	85,098	1-①	16,048	18.9	1-①	16,108	18.9	1-①	18,083	21.3	1-①	14,156	16.6	1-①	20,703	24.3	-	-	
	'75	7-⑤	105,608	1-①	22,040	20.9	1-①	17,627	16.7	1-①	15,982	15.1	1-①	15,387	14.6	2-①	33,875	32.1	1-①	697	0.7
神奈川区	'79	8-①	75,581	2-②	12,508	16.6	1-①	11,747	15.5	1-①	13,264	17.6	1-①	9,589	12.7	2-①	22,473	29.7	1-①	6,000	-
	'75	6-④	92,676	1-①	19,880	21.5	1-①	14,042	15.2	1-①	13,578	14.7	1-①	12,709	13.7	2-②	32,467	35.0	-	-	-
西区	'79	3-②	32,086	1-①	11,157	34.8	-	-	-	-	-	-	1-①	8,238	19.7	1-①	17,934	42.9	1-①	8,462	26.4
	'75	4-②	41,791	1-①	12,566	30.1	-	-	-	-	-	-	1-①	4,301	10.0	1-①	18,189	42.3	-	諸3,053	7.3
中区	'79	4-②	43,015	1-①	9,834	22.9	1-①	10,681	24.9	-	-	-	1-①	6,124	11.4	1-①	19,652	36.4	2-①	7,829	14.5
	'75	6-③	53,922	1-①	10,424	19.3	1-①	9,893	18.3	-	-	-	1-①	7,662	10.7	1-①	16,612	23.2	1-①	17,169	23.9
南区	'79	5-③	71,726	1-①	13,812	19.3	1-①	16,812	23.0	-	-	-	1-①	10,574	12.0	2-②	36,240	41.2	1-①	2,752	3.1
	'75	6-④	87,933	1-①	22,821	26.0	1-①	15,546	17.7	-	-	-	1-①	6,425	11.6	1-①	13,558	24.4	1-①	19,169	34.6
港南区	'79	4-③	55,581	1-①	16,372	29.5	-	-	-	-	-	-	1-①	12,587	21.7	1-①	22,840	39.5	-	-	-
	'75	3-②	57,873	1-①	22,446	38.8	-	-	-	-	-	-	1-①	7,124	11.7	1-①	12,963	21.3	1-①	5,388	8.9
保土ヶ谷区	'79	6-③	60,805	1-①	14,318	23.3	1-①	12,409	20.4	1-①	8,603	14.2	1-①	9,732	13.0	1-①	16,568	22.1	-	-	-
	'75	5-③	74,880	1-①	21,701	29.0	1-①	14,802	19.8	1-①	9,732	13.0	1-①	12,077	16.1	1-①	17,354	23.2	-	-	-
旭区	'79	5-④	74,891	1-①	15,749	21.0	1-①	12,041	16.1	1-①	19,764	26.4	1-①	9,983	13.3	1-①	17,354	23.2	-	-	-
	'75	6-③	86,407	1-①	19,722	22.8	1-①	13,655	15.8	1-①	17,415	20.2	1-①	13,029	15.1	1-①	20,790	24.1	1-①	諸1,796	2.1
磯子区	'79	4-③	52,358	1-①	17,358	33.2	-	-	1-①	10,999	21.0	-	-	-	-	1-①	12,678	24.2	1-①	11,323	21.6
	'75	3-②	64,071	1-①	29,203	45.6	-	-	-	-	-	-	1-①	9,918	15.5	1-①	24,950	38.9	-	-	-
金沢区	'79	3-②	47,014	1-①	15,792	33.6	-	-	-	-	-	-	-	7,238	15.4	1-①	23,984	51.0	-	-	-
	'75	3-②	59,612	1-①	20,726	34.8	-	-	-	-	-	-	1-①	10,480	17.6	1-①	28,406	47.7	-	-	-
港北区	'79	5-④	76,692	1-①	14,873	19.4	1-①	15,301	20.0	-	-	1-①	10,507	13.7	2-②	36,011	47.0	-	-	-	
	'75	6-④	97,670	1-①	16,704	17.1	1-①	15,936	16.3	-	-	-	1-①	11,698	12.0	2-②	44,121	45.2	1-①	8,509	10.0
緑区	'79	7-④	84,861	1-①	15,220	17.9	1-①	12,571	14.8	-	-	1-①	12,471	14.7	2-②	30,802	36.3	1-①	5,288	6.2	
	'75	6-③	91,493	1-①	24,088	26.3	1-①	12,570	13.7	-	-	1-①	14,933	16.3	1-①	32,666	35.7	2-①	7,236	7.9	
戸塚区	'79	10-⑥	129,223	2-②	31,717	24.5	1-①	15,594	12.1	1-①	32,521	25.2	1-①	15,088	11.7	2-①	21,584	16.7	1-①	6,946	5.4
	'75	10-⑥	139,696	2-②	33,202	23.8	1-①	16,741	12.0	1-①	31,716	22.7	1-①	19,363	13.9	2-①	24,089	17.2	3-①	14,585	10.4
瀬谷区	'79	4-②	37,136	1-①	13,478	36.3	-	-	-	-	-	-	1-①	6,060	16.3	1-①	16,120	43.4	1-①	社民1,478	4.0
	'75	3-②	41,487	1-①	18,198	43.9	-	-	-	-	-	-	1-①	6,266	15.1	1-①	17,023	41.0	-	-	-
横浜市計	'79	73-④④	926,067	16-②	218,236	23.6	9-③	122,933	13.3	6-④	103,234	11.2	12-③	110,604	11.9	18-⑤	275,498	29.8	7-③	74,561	8.1
	'75	74-④④	1,095,119	15-④	293,721	26.8	9-③	130,812	11.9	5-⑤	88,423	8.1	13-③	163,383	14.9	19-⑦	371,621	33.9	10-①	47,159	4.3
79-75		+②	△169,052	2-①	△75,485	△3.2	+②	△7,879	1.4	+①	+14,811	+3.1	±0	△52,779	△3.0	△	△96,123	△4.1	+③	+74,561	+8.1
川崎区	'79	6-④	96,639	2-①	27,878	28.9	1-①	15,847	16.4	1-①	14,247	14.7	1-①	13,630	14.1	1-①	25,037	25.9	-	-	-
	'75	6-④	111,251	2-②	38,280	34.4	1-①	19,209	17.3	1-①	17,150	15.4	1-①	14,642	13.2	1-①	21,970	19.7	1-①	1,909	3.0
幸区	'79	5-③	64,034	1-①	15,463	24.2	1-①	12,206	19.1	-	-	1-①	11,947	18.7	1-①	22,509	35.2	-	-	-	
	'75	4-③	73,809	1-①	20,740	28.1	1-①	14,037	19.0	-	-	1-①	12,540	17.0	1-①	26,492	35.9	-	-	-	
中原区	'79	5-③	77,131	1-①	14,223	18.4	1-①	13,508	17.5	-	-	1-①	12,206	15.8	1-①	16,323	21.2	1-①	20,871	27.1	
	'75	5-④	91,307	1-①	20,905	22.9	1-①	13,968	15.3	-	-	1-①	14,822	16.2	2-②	41,612	45.6	-	-	-	
高津区	'79	7-④	96,177	2-①	29,229	30.4	1-①	16,133	16.8	1-①	4,848	5.1	1-①	11,079	11.5	1-①	17,070	17.8	1-①	17,818	18.5
	'75	7-④	104,596	2-①	30,166	28.8	1-①	16,344	15.6	1-①	10,165	9.7	1-①	14,110	13.5	2-②	33,811	32.3	-	-	-
多摩区	'79	4-④	※	1-①	-	-	-	-	-	-	-	1-①	-	-	1-①	-	-	1-①	-	-	-
	'75	5-④	82,158	1-①	23,989	29.1	-	-	-	-	-	1-①	15,644	19.0	2-②	41,148	50.1	1-①	1,377	1.7	
川崎市計	'79	27-②③	333,981	7-⑤	86,793	26.0	4-③	57,694	17.3	2-①	19,095	5.7	5-①	48,862	14.6	5-⑤	80,939	24.2	3-③	38,689	11.6
	'75	27-②③	463,121	7-⑤	134,080	29.0	4-③	63,558	13.7	2-①	27,315	5.9	5-①	71,758	15.5	8-①	165,033	35.6	1-①	1,377	0.3
79-75(除多摩区分)		△	△46,982	△	△23,298	△3.0	±0	△5,864	+3.6	±0	△8,220	△0.2	±0	△7,252	△0.9	△	△42,946	△1.4	+③	38,689	±0

27...立候補者数 ④...定数及び当選者数 ※無投票選挙区



横須賀市	'79	8-②	163,949	2-②	36,308	22.2	1-①	22,929	14.0	1-①	30,907	18.9	1-0	9,601	5.9	2-②	41,985	25.6	1-①	22,219	13.6	-	-	
	'75	10-⑦	188,290	2-②	43,636	23.2	1-①	22,220	11.8	2-①	30,025	15.9	1-0	13,483	7.2	3-②	78,926	41.9	-	-	-	-		
平塚市	'79	4-③	81,839	1-0	15,685	19.2	-	-	-	1-①	25,113	30.7	-	-	-	1-①	19,224	23.5	1-①	21,817	26.7	-	-	
	'75	5-③	88,197	1-①	19,739	22.4	-	-	-	1-①	24,451	27.7	1-0	8,370	9.5	1-①	22,280	25.3	-	-	1-0	13,357	15.1	
鎌倉市	'79	5-②	52,525	1-0	8,796	16.8	-	-	-	1-①	12,596	24.0	1-0	5,007	9.5	1-①	15,659	29.8	1-①	10,467	19.9	-	-	
	'75	5-③	66,668	1-①	12,664	19.0	-	-	-	1-①	16,471	24.7	1-0	9,108	13.7	1-①	19,510	29.3	-	-	1-0	8,915	13.4	
藤沢市	'79	10-⑥	102,120	1-①	13,823	13.5	1-①	14,908	14.6	1-0	10,435	10.2	1-①	10,761	10.5	1-①	15,419	15.1	2-①	15,723	15.4	3-0	21,051	20.6
	'75	10-⑥	113,919	1-①	19,150	16.8	1-①	14,894	13.1	1-0	10,883	9.6	1-①	15,094	13.2	1-①	15,443	13.6	-	-	5-0	30,778	27.0	
小田原市	'79	4-③	71,454	1-①	16,912	23.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-②	41,282	57.8	-	-	1-0	13,260	18.6	
	'75	5-③	88,440	1-①	19,136	21.6	1-0	13,648	15.4	-	-	-	1-0	5,705	8.5	2-②	49,951	56.5	-	-	-	-	-	
茅ヶ崎市	'79	3-③*	-	1-①	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	-	-	1-①	-	
	'75	4-③	64,591	1-①	15,431	23.9	-	-	-	-	-	1-0	9,546	14.8	1-①	19,470	30.1	-	-	-	1-①	20,144	31.2	
逗子市	'79	1-①*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	-	-	-	-	-	1-0	11,163	33.8
三浦郡葉山町	'79	11-⑦	140,530	1-①	13,777	9.8	1-①	19,654	14.0	1-①	18,517	13.2	1-①	13,825	9.8	3-②	42,685	30.4	1-①	14,678	10.4	3-0	17,394	12.4
相模原市	'75	11-⑥	152,736	2-①	27,132	17.8	1-①	19,840	13.0	1-①	15,982	10.5	1-①	16,361	10.7	2-②	48,516	31.8	-	-	4-0	24,905	16.3	
三浦市	'79	3-①	25,126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-0	10,323	42.9	1-0	8,859	35.3	2-①	16,267	64.7
	'75	3-①	24,257	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-0	12,994	30.3	1-①	11,474	26.8	2-①	13,934	57.9
秦野市	'79	4-②	42,900	1-0	9,688	22.6	-	-	-	-	-	1-0	2,675	6.1	1-①	12,994	30.3	1-①	11,474	26.8	1-0	8,744	20.4	
(75は含愛甲郡)	'75	5-①	44,047	1-0	10,023	22.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-②	29,798	90.1	-	-	3-①	31,349	71.2	
厚木市	'79	3-②	29,755	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-②	29,798	90.1	-	-	1-0	2,957	9.9	
	'75	4-②	58,182	1-0	7,121	12.2	-	-	-	1-0	7,392	12.7	2-②	43,669	75.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大和市	'79	4-③	52,562	1-①	14,918	28.4	1-①	14,071	26.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-①	23,573	44.9	
	'75	4-②	60,138	1-①	16,387	27.2	1-0	14,911	24.8	-	-	-	1-0	7,576	12.6	-	-	-	-	-	1-①	21,264	35.4	
伊勢原市	'79	2-①	22,454	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	14,371	64.0	1-0	8,083	36.3
	'75	2-①	25,587	-	-	-	-	-	-	-	-	1-0	5,140	20.1	-	-	-	-	-	-	1-0	20,447	79.9	
海老名市	'79	2-①	23,092	1-①	11,910	51.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	11,182	48.4	-	-	
	'75	3-①	24,303	1-0	10,093	41.5	-	-	-	-	-	1-0	2,449	10.1	-	-	-	-	-	-	-	1-①	11,761	48.4
座間市	'79	2-①	32,150	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-①	32,150	100.0	
	'75	4-①	30,373	1-0	8,212	27.0	-	-	-	1-0	3,721	12.3	-	-	-	-	-	-	1-①	10,602	51.2	2-①	18,440	60.7
南足柄市	'79	2-①	20,708	1-0	10,106	48.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	'75	4-①	20,606	1-0	6,692	32.5	-	-	-	1-0	1,055	5.1	-	-	-	-	-	-	-	-	2-①	12,859	62.4	
綾瀬市	'79	2-①	19,473	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	13,898	71.4	-	-	-	1-0	5,575	28.5	
(75は含高座郡)	'75	2-①	30,361	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	21,138	69.6	-	-	-	1-0	9,223	20.5	
高座郡	'79	2-①	14,915	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-①	14,915	100.0	
愛甲郡	'79	2-①	14,321	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2-①	14,321	100.0	
中郡	'79	1-①*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	-	-	
	'75	2-①	24,643	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	15,410	62.5	-	-	-	1-0	9,233	37.5	
足柄上郡	'79	1-①*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	-	-	
	'75	4-①	30,905	1-0	5,616	18.2	-	-	-	1-0	1,462	4.7	1-0	10,666	34.5	-	-	-	-	-	-	1-①	13,161	42.6
足柄下郡	'79	1-①*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	-	-	
	'75	2-①	23,840	-	-	-	-	-	-	1-0	5,472	23.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	18,368	77.0
津久井郡	'79	2-①	23,664	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	15,112	63.9	1-0	8,552	36.1
	'75	2-①	20,930	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1-①	16,421	78.5	
県内合計	'79	175-115	2193,586	35-②	456,952	20.8	17-⑥	252,189	11.5	13-⑦	219,897	10.0	21-⑥	198,660	9.1	39-②	586,381	26.7	23-②	269,754	12.3	31-⑧	209,271	9.6
	'75	190-109	2772,307	38-②	648,833	23.4	18-⑥	279,883	10.1	13-⑧	213,550	7.7	35-⑥	354,259	12.8	45-④	913,846	33.0	-	-	-	41-⑩	361,936	13.1

政令都市市議選派別得票比較

神奈川県地方自治研究センター

Table with columns for administrative area, year, candidate number, party name, and various statistics including votes, candidates, and percentages. Rows include districts like 鶴見区, 神奈川区, etc., and a summary row at the bottom.

# 編集後記



様に熱心な読者と編集委員がいれば、月報の内容は「確実」に充実するのでしょうか……。(平林)

統一自治体選挙は革新側の後退に終わった。日本の政治経済の危機的状況が政府、独占資本への批判としてあらわれなかったことに、運動の不十分さを真剣に考えるべきではなからうか。選挙総括を単なる技術的な問題として終らせることなく、長期展望にたった総括を行い、80年代の政治変革への運動を明らかにすることを期待する。真剣に政治変革を考えるならば、今回の統一自治体選挙の結果をみても明らかなようにあくまで主体性をもち反体制の立場をつらぬくことが求められているといえないだろうか。(佐藤キ)

暑い日が続くと思えば、突然ゴロゴロさまが鳴ったり、全く不安定な天気が続きます。「不確実性」の時代なのでしょう。この世相を反映してインベーダーゲームがはやっています。これは最終的には、「確実」にインベーダーに侵略されてゲームセット。この間100円1個で何分持つのか—それは「不確実」です。インベーダー同

月報の到着がやゝ遅れて恐縮です。連休後の5月某日に覆面座談会をやり、テープをおとして編集する。統一自治体選挙の結果を中心とした資料づくりがまたひと苦勞—。とかなんとかいっているうちに月中ば過ぎになってしまったのです。

だがしかし、内容的にはかなり豊富なものになっているし、資料集として保存に値するものである(これは編集者の自画自賛)。ページ数も特別サービスで増している(これは会員サービスのためのPR)。

月報も数えて20号。2年間で20回だから4回サボったことになるなんて言わないで下さい。合併号のページ数は普段の2倍以上にはなっているのですから……。

第3回総会も近づきました。次号では総会の議案の特集となります。どうぞ多くの会員が総会に来て活発な意見交換されることを期待します。

(上林)

1979年5月25日発行

## 自治研かながわ月報 第21号 (1979年5月号)

発行所 神奈川県地方自治研究センター

発行人 広田武治 編集人 上林得郎 定価 1部 200円

〒231 横浜市中区住吉町2-26 洋服会館3F ☎045(662)0743~4

振替口座 労働金庫本店 1365-100982 横浜銀行市庁舎支店 317-844970

自治研センター会員募集中

会員になるには

1. 誰でも会員になれます。
2. 申込書は自治労傘下の各組合，自治労県本部または自治研センター事務局にあります。会費月300円の半年分または1年分をそえてお申しこみください。
3. 申込書がないときは自治労県本部 ☎045(681)7821, または自治研センター事務局 ☎045(662)0743へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターのこの月報が毎月送られます。
2. 「月刊自治研」（自治労本部自治研推進委員会発行・A5判・120～150ページ 定価300円）が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用できます。